

4. トラブルとその対応事例

4-1. 発生が想定される軽微なトラブル事例

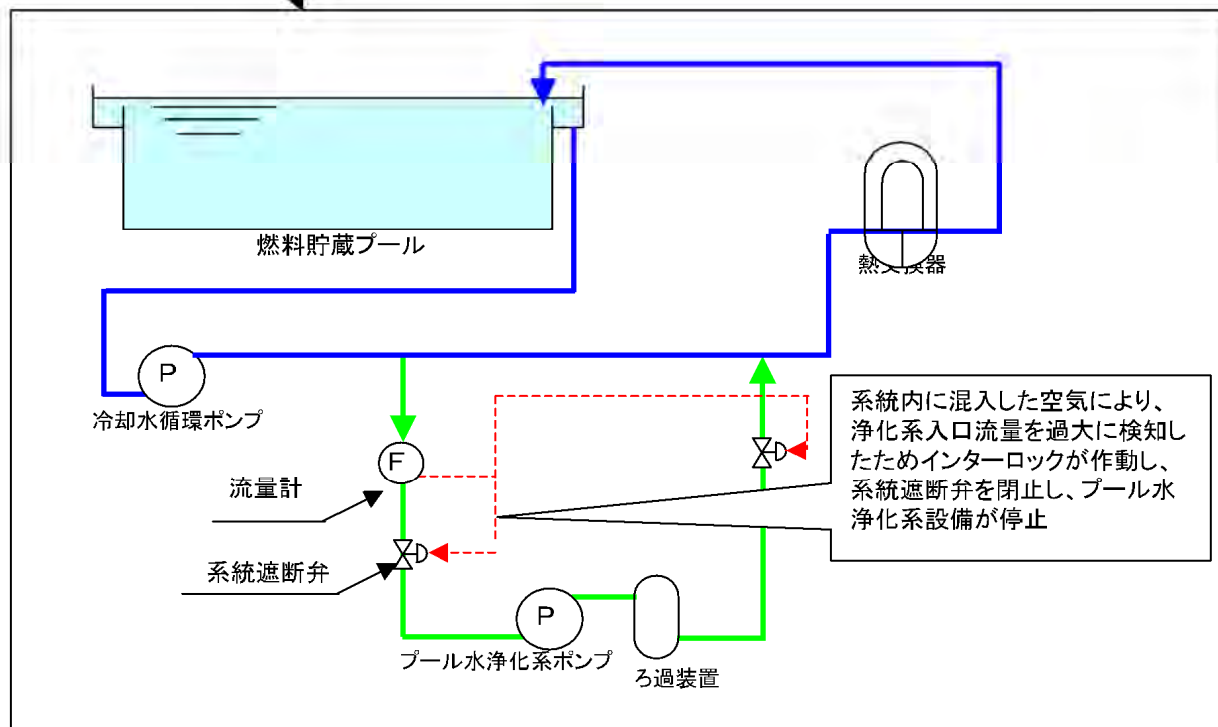
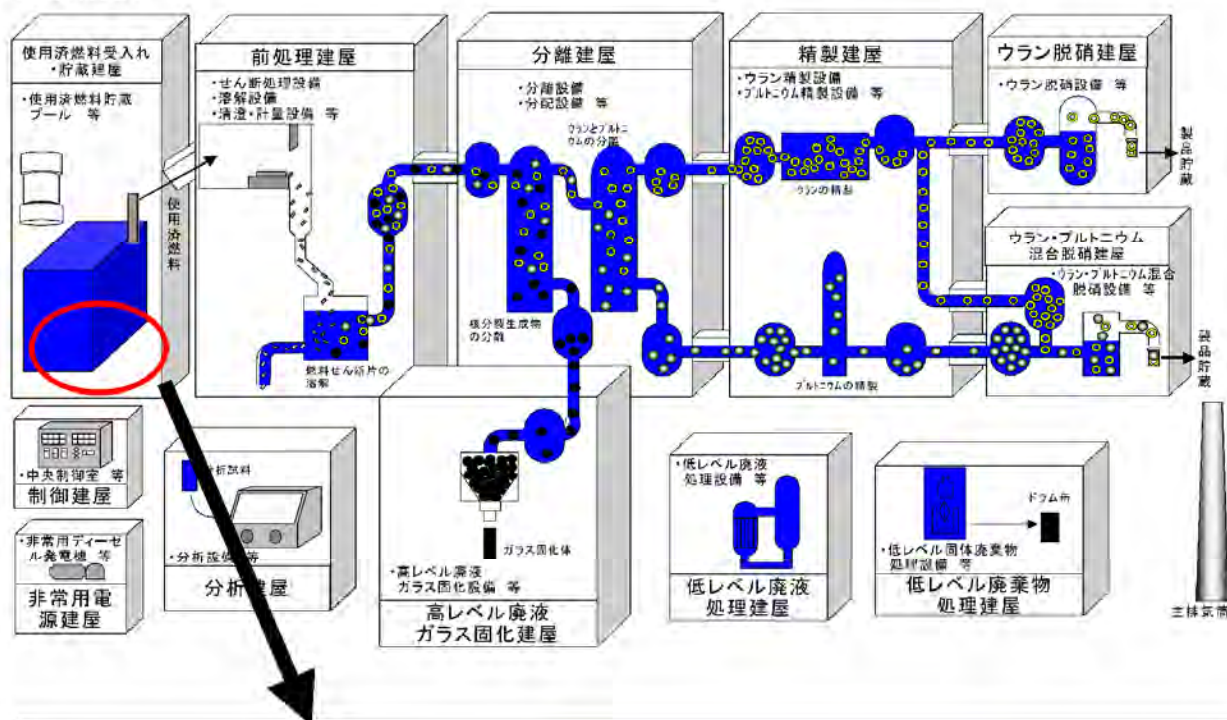
事象分類別 (d. 計測・制御系の不良)

4-15. プール水浄化設備系統遮断弁閉止インターロックの作動

事象の概要																	
(1)発生場所：機器	使用済燃料受入れ・貯蔵施設：プール水浄化・冷却設備																
(2)設備の概要	使用済燃料を燃料貯蔵プールにおいて安全に貯蔵・管理するため、燃料貯蔵プールのプール水を冷却するとともに、浄化設備において不純物を除去する設備。プール水を冷却する設備は、プール水浄化設備に異常が発生したときは、流量、圧力などから異常を確実に検出し、系統遮断弁を閉止、浄化設備の運転を停止することで冷却設備に影響を与えないようにする。																
(3)発生の状況	プール水浄化系・冷却設備の運転中																
(4)概要	プール水浄化系・冷却設備点検終了後、当該設備を通常状態に復旧し運転中のところ、プール水浄化設備に混入した空気が、流量計を一時的に変動させたため、自動停止信号（インターロック）が作動し、プール水浄化系入口の系統遮断弁が閉止してプール水浄化系設備が停止。																
(5)原因	運転・保守を実施する中で偶発的に系統内に空気が混入することによる一時的な流量変動。																
事象による影響																	
(1)工場外への影響	工場外への影響は生じない。 放射性物質を除去するフィルタ等を有する、使用済燃料受入れ・貯蔵施設の建屋換気設備が稼働している建屋での事象および、それに伴う復旧作業であり、放射性物質の放出等の工場外への影響は生じない。なお、本事象は放射性物質の漏えいを伴うものではない。																
(2)安全性への影響	安全上の問題は生じない。 プール水浄化設備が停止するが、プール水冷却設備は停止することなく使用済燃料の冷却機能を維持しているため、これ以上事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。																
(3)作業員への影響	作業員への影響は生じない。 復旧作業は、定められた放射線管理計画書に従って作業を進めることにより、放射線による作業員への影響は生じない。																
(4)他工程への影響	他工程への影響は生じない。 使用済燃料貯蔵プールの冷却機能は維持出来ていることから、他工程への影響は生じない。																
対応の概要	1.プール水冷却設備に異常のないことを確認する。 2.定められた作業手順に従って系統内に混入した空気を抜く。 3.プール水浄化設備を定められた操作手順に従って再起動する。																
公表区分	毎月集約して月 1 回公表(ホームページ掲載)																
連絡区分*	<table><tr><th colspan="3">トラブル情報</th><th colspan="3">運転情報</th></tr><tr><td>A 情報</td><td>B 情報</td><td>C 情報</td><td>ごく軽度な機器故障</td><td>清掃・調整等で復旧可能な機器停止等</td><td>不適合等</td></tr></table>					トラブル情報			運転情報			A 情報	B 情報	C 情報	ごく軽度な機器故障	清掃・調整等で復旧可能な機器停止等	不適合等
トラブル情報			運転情報														
A 情報	B 情報	C 情報	ごく軽度な機器故障	清掃・調整等で復旧可能な機器停止等	不適合等												

*：『A情報』：安全協定報告事象等、または、それに準ずる事象、『B情報』：事象の進展または状況の変化によっては、安全協定報告対象になるおそれのある事象等、『C情報』：A、B情報に該当しない軽度な不具合、汚染等、特に連絡を要する事象

事象概要



復旧方法

定められた操作手順に従い復旧操作をして復旧

トラブル等に伴う設備への影響範囲

当該設備を停止して復旧

